

号外 日本と中国

Japan and China Friendship Newspaper

昭和42年2月6日第三種郵便物認可/発行/公益社団法人日本中国友好協会

飯田地域版/編集:飯田日中友好協会/会長:清水可晴

飯田日中のニュース 2020年10月号第326号

今月の予定

11日(日) 2・3世向日本語教室/阿智

15日(木) 高齢者向け日本語教室/豊丘はつらつ

24日(土) オンライン演劇鑑賞/記念館

25日(日) 2・3世向日本語教室/阿智

★帰国者共同墓地の清掃作業を行いました

9月19日、飯田日中と飯伊中国帰国者連絡会の共催で、中国帰国者共同墓地の清掃と墓参を行いました。

共同墓地は、平成10年に飯田霊地公園内に飯田日中友好協会が設置し、以後墓地利用者と飯伊帰国者連絡会が日常の管理を行っています。設置当初、飯伊在住の帰国者37名から墓地利用の申し込みがありましたが、各自で墓を設置するなど、徐々にその数も減少しています。現在は4名のお骨が納められています。飯田日中では、今後も毎年清掃作業を行い、飯伊中国帰国者連絡会とともに共同墓地を守っていく予定です。



(左写真 清掃後全員で墓参)

中国帰国者が眠る共同墓地の草取りをする協会員ら



帰国者墓地に誓う平和

飯田日中友好協会や中国帰国者ら10人が19日、秋の彼岸に合わせて飯田霊地公園(飯田市川路)にある帰国者の共同墓地を清掃し、献花した。飯伊中国帰国者連絡会が墓地の管理を続けているが、高齢化などに伴い作業が難しくなってきたことから、昨年と同協会員が参加。和平日と刻まれた墓石に手を合わせ、平和の大切さを次代につなぐ思いを新たにしました。

墓地は1998年、土地の「上野野村開拓団員として両親確保や経済的な理由で墓を用」と旧満州(中国東北部)に渡意するのが難しかった帰国者「帰国者同士も高齢化し、連絡を取り合うことが難しくなると多い時には8人が納骨したが、家族が墓を移すなどし謝している」。協会の清水可晴(69)も「渡満したのは、草刈りや墓碑の拭き掃除を30分ほどで終え、墓前に線香と花を手向けた。連絡会長の多田清司さん(81)「飯田中上郷黒田」は、を続け、恒久平和を願う機会にしたい」と話した。

飯田日中友好協会員ら

(上記 9月20日信濃毎日新聞より転載)

先月9月の活動日誌

- 13日(日) 2・3世向日本語教室/阿智
- 17日(木) 高齢者向け日本語教室/豊丘はつらつ
- 18日(金) 国際交流推進協会理事会/飯田市
- 18日(金) 満蒙開拓平和記念館運営委員会/記念館
- 27日(日) 2・3世向日本語教室/阿智

新宿の「平和祈念展示資料館」提供「戦後75年企画～秋のオンライン演劇公演」

9月号飯田日中ニュースでお知らせした、表記のオンライン演劇公演が予定通り開催されます。

- 10月10日(土)14:00～(約45分) 亡き父の証言を朗読「戦争に奪われた青春～少年兵のシベリア抑留体験」
- 10月17日(土)14:00～(約45分) リーディング公演「和良村分村開拓団・苦渋の道」
- 10月24日(土)14:00～(約45分) 朗読劇公演「生徒との約束をつらぬいて」/24日は満蒙記念館で視聴。
- 10月31日(土)14:00～(約45分) 一人芝居「フィリピンから孤児となった初恵を連れて」

◎ オンライン環境にある方は、自宅で、ご家族やお友だち等に呼びかけて視聴して下さい。

◎ オンライン環境に無い方は、24日の13時45分までに満蒙記念館にお越し下さい。揃って視聴しましょう。

特に、10月24日(土)は、地元の下伊那郡西部5カ村(旧清内路村、智里村、浪合村、現平谷村、根羽村)から、現黒竜江省宝清県に昭和18年3月入植した「東横林南信濃郷開拓団」の教師の体験朗読劇です。

この教師は、開拓団員と共に19年4月、満洲に渡った在満国民学校の若い教師「稲垣(旧姓山口)秀子」さんの現地の生活と敗戦時の悲惨な引揚体験証言「生徒との約束をつらぬいて」を、劇団俳優座による「朗読劇」を「YouTube」で視聴します。因みに「東横林南信濃郷開拓団」は、西部県境から渡ったもう一つの開拓団、『望郷の鐘』(映画化)で知られる「北哈嗎阿智郷開拓団」(旧会地村、旧伍和村、飯田市旧山本の3カ村で編成)と隣接し、どちらも60%以上の犠牲者を出した悲惨な開拓団です。

●特に、10月24日(土)は阿智村の満蒙開拓平和記念館で見ましょう!●

(24日ご来館の方は会場整理上、事前に満蒙記念館にご連絡をお願いします。(入館料日中負担)